～特別の教科　道徳　研究実践～

登場人物の葛藤について考えることを通して，正しいと思ったことを進んでしようとする意欲を育てる学習

～２年「正しい行い『わすれられない　えがお』」の実践を通して～

安　部　彰　浩

Ⅰ　はじめに

２年次となる全体研究では，「深い学び」をキーワードとして，各教科等の本質的な学習の在り方について研究を進めてきた。特別の教科道徳（以下「道徳科」とする）においては，道徳的諸価値についての理解を基盤として，特に「多面的・多角的」に思考，判断することを重視した授業づくりを目指して研究を進めてきた。

グループで話し合っている児童の姿

従来の「道徳の時間」は，本年度４月から「特別の教科　道徳」として全面実施されている。多様化が進む社会の中で，自律した個人として，あるいは社会の形成者としてよりよく生きていくために必要な資質や能力の育成が求められ，道徳的価値観に向き合い，生き方を選択する主体性の育成を目指す道徳教育・道徳科の重要性が注目されている。

そこで，道徳教育２年次研究のテーマを「自己を見つめ，物事を多面的・多角的に考える学習」と設定した。価値理解，人間理解，他者理解，自己理解の４つの視点を踏まえた多面的・多角的に考える授業を通して，児童が，道徳的価値との関わりを見つめ，よりよい生き方についての考えを深められるようにしたいと考えた。

Ⅱ　研究の目的と方法

本研究の目的は，自己を見つめ，物事を多面的・多角的に考える力を高めるための効果的な手立てについて明らかにすることである。そのために，以下の２つの視点から，授業実践「正しい行い～Ａ　善悪の判断，自律，自由と責任」における児童の様子について分析する。

①　道徳的諸価値の確かな理解を目指す学習指導の改善

②　道徳ノートへの記述を通して，自らの成長を実感する自己評価の工夫

なお，研究の対象とした授業の概要は以下のとおりである。

１　主題名　「正しい行い」～Ａ　善悪の判断，自律，自由と責任

２　指導のねらい

物事や行為の善し悪しを正しく判断する力を身に付けるとともに，正しいと思ったことを行うことの大切さに気付き，進んで取り組もうとする意欲を育てる。

３　授業の概要

教材は，「わすれられない　えがお」（東京書籍）である。混み合うバスの中で，隣にいた婦人の足を踏んでしまうせいこは，謝罪するか否かで葛藤する。母の教えを思い出したせいこは，思い切って謝罪する。それを受けた婦人は，30年近く経過した今でもせいこの記憶に残るような笑顔を返してきた。

授業では，せいこが，足を踏んでしまった後に見せる葛藤や，取った行動について考えさせる。まず，せいこが選択できる行動について，表で提示する。そして，その中で最もよいと思う行動を児童に選択させる。そして，最もよいと分かっていながら，せいこが行動することをためらったのはなぜか，ためらったことに共感できるかということについて話し合うことを通して，道徳的価値についての理解を深めながら，自分の生き方を振り返らせていく。

※なお，結果と考察については，第２学年での２つの授業実践（以下「授業１」，「授業２」とする）を踏まえたものとした。

Ⅲ　結果と考察

１　道徳的諸価値の確かな理解を目指す学習指導の改善

(1) 結果

資料の主人公が置かれた立場を視覚的に捉えることや，選択すべき行動について考えること（善悪の判断）から，児童の問題意識を引き出すために右のような表を提示した。

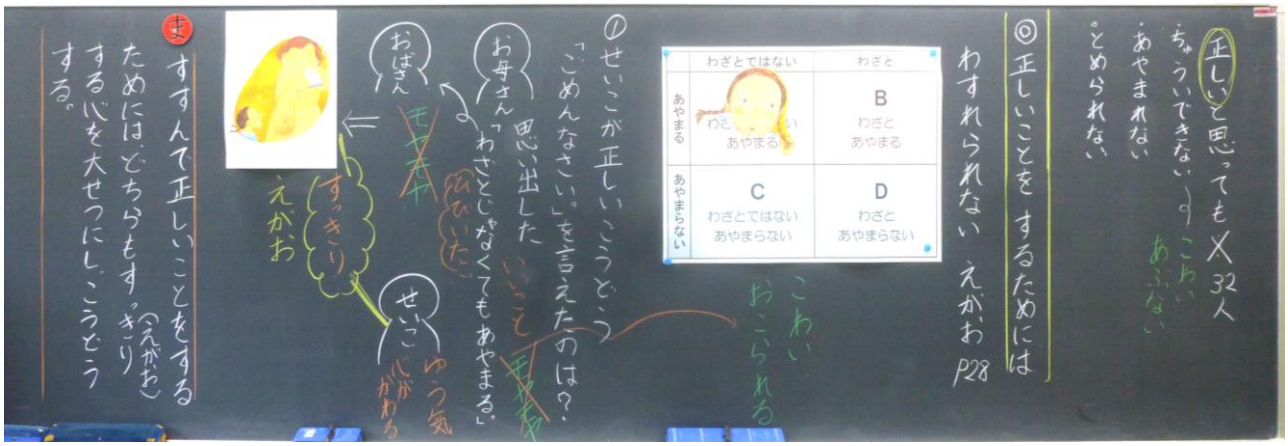
	わざとではない	わざと
あやまる	A わざとではないけれど あやまる	B わざとだから あやまる
あやまらない	C わざとではないから あやまらない	D わざとだけど あやまらない

資料１　提示した表

学習過程の構想では，表を提示したときに「Ａ～Ｄをよい順序に並べてみましょう。」と問う予定であったが，授業１では児童の様子から，「どれが最もよいか。」と変更した。挙手によって，児童の考えを確認したところ，全員がＡを選択した。

次に，主人公が選択した行動の価値について確認することで，最も正しい行動を選択していることを押さえた。ここで，ある児童が，「だけど……。」とつぶやいたことを受けて，「何か問題があるのか。」と返すと，「そもそも足を踏まないように気を付けるべき。」と発言が続いた。その後，賛同する発言がいくつかあったが，「踏んでしまったのだから，その次の行動を考えよう。」と軌道修正を試みた。すると，「すぐに謝ればよいのに，謝れなかったのが悪い。」という発言があった。そこから，葛藤する主人公に共感するか否かについての話合いが始まった。話合いを長引かせてしまったため，中心発問が曖昧となり，十分に議論できずに授業を終えた。

授業１での反省を踏まえ，授業２では主人公が迷った理由を簡単に推測させ，すぐに中心発問に移った。児童は，主人公の母親の教えや足を踏まれた婦人の気持ちを想像しながら，進んで正しいことをするために大切にすることについて，「どちらもすっきりする心を大切にして行動する。」と授業をまとめた。



資料２　授業２での板書

(2) 考察

授業１では，表を提示して主人公の行動の価値について問うことで，児童の問題意識（「だけど……」）を引き出すことができたことから，表の提示（視覚化）は効果的であったと言える。また，その後の授業展開から，問題意識が追究したい価値とずれたものであった場合を想定した対処についても考えておくことが重要であると言える。

「すぐに謝れなかったのが問題である。」という児童の指摘は，中心発問で留意していた負の感情に寄ったものであった。これは，相手の瑕疵について指摘しがちな低学年らしい反応であったと考えられる。授業２での児童の反応を考慮すると，葛藤への共感に重きを置くのではなく，中

心発問からの児童の反応を重視して授業を展開することが，価値の理解を深めることになると考えられる。こうした点から，本研究で進めてきた「中心発問を軸とした授業の構想」は，道徳的諸価値の確かな理解にとって，効果的なアプローチの一つであったと言える。

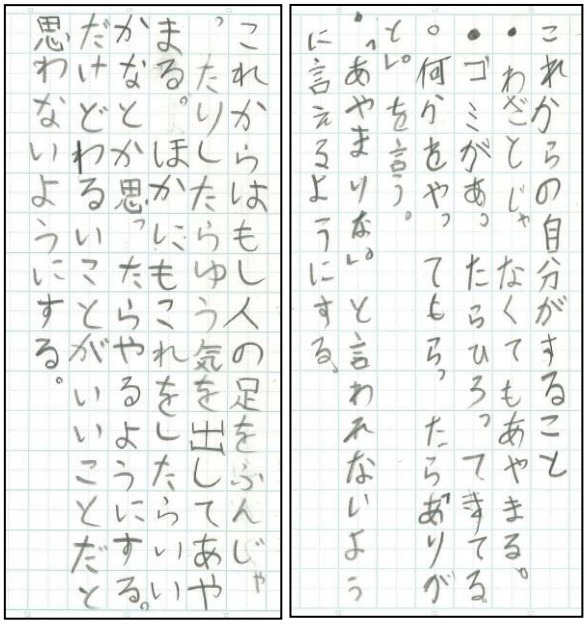
２　道徳ノートへの記述を通して，自らの成長を実感する自己評価の工夫

(1) 結果

第２学年の児童は，昨年度までワークシートを用いて学習を進めてきた。今年度からは，他の学年と同様にノートに記述することにした。

これまでの授業では，発問に対する自分の考えを記入する場面で，書くことに時間が掛かってしまう姿が見られた。時間が掛かっているのは，自分の考えとその理由について記入している児童が多かったためである。書くことに時間が割かれるため，価値の追究や主体的自覚が深まらなくなることも見られた。

そこで，自分の考えを記入する発問では，できるだけ簡単に記述できるような問い方をしてきた。賛成，反対などの自分の立場を簡潔に記し，理由についてペアや小グループで話し合う学習展開にすることで，思考の流れを停滞させずに学習を進めることができた。


これからはもし人の足をふんじゃったりしたらゆう気を出してあやまる。ほかにもこれをしたらいいかなとか思ったらやるようにする。だけどわるいことがいいことだと思わないようにする。

これからの自分がすること
・わざとじゃなくてもあやまる。
・ゴミがあったらひろってすてる。
・何かをやってもらったらありがとうを言う。
・あやまりなさいと言われないように言えるようにする。

資料３　授業１での振り返り

低学年児童であることや，ノートを使用して間もないことを考慮し，「１つ１つの発問に対する自らの考えを記述する」ことよりも，「これからの自分の行動を考える」ことを重視した。これは，価値の主体的自覚の段階で，振り返りとして記入することにした。

授業の振り返りを書く視点としては，「これまでの自分」「これからの自分」「授業で考えたこと・思ったこと」の３点について指導してきた。本実践での振り返りでは，これからの自分についての記述が多く見られた。教材の内容である「他人の足を踏んでしまった時」に関わる内容や，「すぐに謝る」というこれからの行動についての記述が多い中，正しいことやよいと思うことを進んで行おうという意欲が感じられる記述もあった。

こうした振り返りの内容を踏まえ，よいと思うことを進んで行っている児童の様子を学級や学年で奨励，紹介してきたところ，休み時間の終わりにごみ拾いをして教室に戻ってくる児童が出てきた。

(2) 考察

本研究では，児童がノートへの記述を基にして学習を振り返りながら，自らの成長を実感したり，自己を見つめたりすることができるようにするために，①１つ１つの発問に対する自らの考えを記述する，②これからの自分の行動を考える，という手立ての有効性について検証を進めてきた。

①について，当該学級の児童が自分の考えとその理由について記述していたのは，他教科等の授業での発言の仕方が影響したものと考えられる。このような文章構成で記述すると，どうしても低学年児童では時間が掛かってしまう。記述の仕方については，学年の発達段階を考慮して，段階的に指導していく必要があると考える。また，扱う内容項目や教材との関わり，授業展開の在り方も含めた研究の蓄積により，一層の研究成果が期待できると思われる。

②については，学習の振り返りとして記述することで，事後指導との関連を図ることができ，道徳的な意欲の高まりを実践へとつなげることができると考える。

Ⅳ　まとめ

本研究では，児童の「自己を見つめ，物事を多面的・多角的に考える力」を高めるための手立てについて，その効果を検証してきた。そのために，本実践では，「道徳的諸価値の確かな理解を目指す学習指導の改善」「自らの成長を実感する自己評価の工夫」の２点について，「正しい行い～Ａ　善悪の判断，自律，自由と責任」の実践を基に論を展開した。以下に，成果と課題を示す。

１　成果

○中心発問を軸とした授業構想をすることによって，物事を多面的・多角的に考え，道徳的価値への理解を深めることができた。

○教材の主人公の行動について可視化（表として提示）することによって，児童の問題意識を喚起することができ，自分事として価値の追究を進めることができた。

○これからの自分の行動を記述する学習の振り返りによって，授業で追究した価値と事後指導を効果的に関連させられるようになり，意欲を実践へと高めることができた。

２　課題

○児童の問題意識を喚起して授業を進める場合，児童のつぶやきの拾い方や，扱い方に留意する必要がある。

○道徳ノートへの記述の仕方や内容について，学年の発達段階を考慮して段階的に指導していことや，扱う内容項目や教材との関わり，授業展開の在り方も含めて研究を進めていく必要がある。

Ⅴ　参考文献

○小学校学習指導要領解説　総則編　文部科学省　平成29年６月

○小学校学習指導要領解説　特別の教科　道徳編　文部科学省　平成29年６月

○いじめの問題等への対応について（第一次提言）　教育再生実行会議　平成25年２月

○今後の道徳教育の改善・充実方策について（報告）　道徳教育の充実に関する懇談会　文部科学省　平成25年12月

○幼稚園，小学校，中学校，高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策について（答申）　中央教育審議会　平成28年12月21日

○初等教育資料No.948「道徳において育成を目指す資質・能力」文部科学省　東洋館出版社　平成29年１月

○初等教育資料No.940「『特別の教科　道徳』の実施に向けた道徳教育の推進　文部科学省 東洋館出版社 平成28年５月

○初等教育資料No.939「道徳教育におけるカリキュラム・マネジメント」文部科学省 東洋館出版社 平成28年４月

○初等教育資料No.931「『特別の教科　道徳』の実施に向けて」文部科学省　東洋館出版社　平成27年９月

○小学校　新学習指導要領の展開　特別の教科　道徳編　永田繁雄 編著 明治図書 平成28年２月

○問題解決型の道徳授業～プラグマティック・アプローチ～　柳沼良太 明治図書 平成18年３月

○道徳教育で大切なこと　赤堀博行　東洋館出版社　平成22年10月

○道徳授業で大切なこと　赤堀博行　東洋館出版社　平成25年10月

○平成29年版 学習指導要領改訂のポイント 小学校･中学校 特別の教科 道徳 永田繁雄 監修 明治図書 平成29年４月